

地域づくり活動 NPO 事業助成事業 実績報告

事業区分 (05-03)

団体名	(特非) 里地里山問題研究所	代表者名	代表理事 鈴木 克哉
事業名	農村課題解決と地域活性化に貢献する関係人口創出・拡大事業		

<事業実施実績>

年月日 定例は「月1回」「毎○ 曜日」等で記入	場所	参加者 一般 (スタッフ)	活動内容 (勉強会や定例会、講演会、イベントなどを幅広く記入) ※講演会、イベント等はタイトル・講師・会場等を併記
4月～12月 1～2週間に1度開催	丹波篠山市安口 西・川原集落内 の当団体が管理 する畑	284 (80)	『黒豆ボランティア』 耕作放棄地を活用した畑で丹波黒豆・山の芋・夏野菜栽培な どボランティアを募集し実施した(計28回)。 作業内容 4月：山の芋植え付け・草刈り、 5月：夏野菜植え付け・畝の溝掘り 6月：黒豆植え付け・準備、7月：草刈り、肥料やり 8月：支柱やロープ張り 9月：草刈り 10月：黒枝豆収穫・冬野菜種まき 11月：収穫・黒豆の葉取り・山の芋収穫 12月：黒豆収穫・選別作業
9月10・25・28日 10月1・5日 2月18日	ユニットピアささ やま内矢代集落 管理の栗園	52 (11)	『丹波栗栽培ボランティア』 丹波篠山市矢代集落が管理する担い手の不足した丹波栗農園 の栽培ボランティアを募集した(計6回)。 作業内容…9月～10月：丹波栗の収穫・選別 2月：枯草集め
7月16日 8月7日 11月3・12日	丹波篠山市 藤坂集落の畑	31 (10)	『藤坂でそばづくり』 丹波篠山市藤坂集落内で発生した耕作困難地をそば畑として 活用する栽培ボランティアを募集した(計4回)。 作業内容…7/16草刈り 8/7種まき 11/3・11/12収穫
1月22・28日 2月23日	丹波の森公苑 (1/22・2/23) 四季の森会館 (1/28)	57 (6)	『そば打ち体験イベント』 上記の企画で収穫したそば粉を使用しそば打ち体験イベン トを実施(計3回)。講師：濱園俊弘さん(丹波篠山市在住)

<効果と成果>

<p>本事業において、2022年度は531名(延べ)が地域外から丹波篠山市内の様々な活動に参加した。</p> <p>昨年度取り組んでいた「黒豆ボランティア」の集客・運営ノウハウを生かし、市内の複数の集落において「獣がい対策」となるプログラム(矢代集落での栗栽培・藤坂集落でのそば栽培)を立ち上げ、収穫や試食の体験を実施。参加者からは「ほかの団体にはない温かさを感じる」「作物のなり方や地域の人の手入れの大変さがよくわかる」など、評価は高い。また実施地域の住民からも人手が足りないので助かる、農地の管理を継続できた、等の声を頂いた。現在ほどの地域においても、来年度以降の活動も見据えた関係性作りがなされている。</p> <p>また公式LINEアカウントの運用も開始し、113名(2023年1月現在)が登録。活動毎の告知や報告に活用し週に1回程度配信を行っており、特に若年層などとのコミュニケーションが円滑になった。</p>
--

<今後の展望>

今年度は活動の幅が大きく広がったが、課題として、参加者が市内のどの取り組みにも同じ人が参加しているということも見られた。現在は日々の活動の運営がメインで取り組んでいるが、新しい関係人口の獲得のための広報活動にも積極的に取り組む。栗栽培やそば栽培については、地域・関係者と相談をしながら、収穫・試食以外のイベントの参加者をより増やしていけるように企画・広報を行い、参加者の獲得を図る。本年度行った3地域での活動は来年度以降も継続し、地域へのファンをさらに増やしていく。

また公式LINEの活用については、今後も頻度・配信の仕方など改善をしていく。

さらにこれからは、活動を通じて収穫した農産物を、参加者や地域外の人が購入して地域を応援し、さらに活動が活性化するという『獣がい対策応援消費』のサイクルがおこることを目指し、市役所や地域内外の多様な人材と関わりながら展開を拡げていく。

<収支決算書>

(収入)

項 目	金 額 (円)
地域づくり活動 NPO 事業助成金	400,000
自己資金	61,114
合計	461,114

(支出)

区分	項 目	金 額 (円)	左のうち 助成対象金 (円)
直接経費	需用費	180,853	163,700
	獣害柵費	112,629	70,000
	スタッフ賃金	95,000	95,000
	その他 (等)	55,332	55,000
	小 計	443,814	383,700
間接経費 (一般管理費)		17,300	16,300
合 計		461,114	400,000